

1 題材名 大地震に備えて

2 題材について

2-1 題材観

2011年3月11日（金）14時46分に起きた東日本大震災において、想定外であった大津波や火事などから多くの命を失った惨事は記憶として新しい。未だに復興しきれぬ状況から余儀なく避難生活を送っている人々や遺族を探して回っている人々をテレビや新聞などで目にする。千葉県においても約20人の死亡者をはじめ津波及び液状化現象による建造物倒壊や浸水などの被害が相次いだ。幸いにして本校及び児童には被害は無かったものの、今後起きうる関東直下型大地震や東海地震などに対し十分な知識と行動力を備えておかなければ、学校内で地震が起きた場合は教師主導で対応できるが、登下校中やその他の場所では命を落とし兼ねない。また、今回の震災を振り返ると、地震直後の電話連絡の取りづらさや食料や水などの物資供給不足や交通渋滞などパニックになる要素が多く、例え震災対応マニュアルがあったとしても円滑に対応できなかった。それを踏まえ本題材は、千城台南地区においての大地震を想定し、より実践的で安全な大地震対応策を考え、「自分の命は自分で守る」ことのできる児童の育成をねらいとする。

2-2 児童の実態（男子12人、女子17人 計29人）

本学級の児童に対し、東日本大震災を振り返ってアンケートを行った。

Q1、3月11日の東日本大震災はどう思いましたか？

すごくこわかった	12人	(41%)	まあまあこわかった	9人	(31%)
あまりこわくなかった	3人	(10%)	まったくこわくなかった	5人	(17%)

Q2、東日本大震災の地震の規模はどれくらいですか？

マグニチュード6.0	4人	(13%)	マグニチュード7.0	5人	(17%)
マグニチュード8.0	4人	(13%)	マグニチュード9.0	9人	(31%)
無回答	7人	(24%)			

Q3、東日本大震災の千葉の震度はどれくらいですか？

震度4	1人	(3%)	震度5弱	8人	(28%)
震度5強	15人	(52%)	震度6	4人	(13%)

Q4、学校の周りで友達と遊んでいるときに大地震が起きたらどうしますか？

・建物が無いところに逃げる。	3人	・物の落ちてこないところに逃げる。	4人
・地震がおさまってから家に行く。	1人	・学校に行く。	7人
・遊具から離れる。	1人	・大人を呼び、大人と一緒に近くの安全な場所に避難して、おさまったら学校へ行く。	5人

- ・人を呼んで助けてもらう。 1人 ・高い場所へ行く。 2人
- ・そのまま遊んでいる。 1人 ・近くの家に行く。 1人
- ・団地の屋上へ逃げる。 1人

Q5、大地震が起きて、もしも津波が来た場合にどこにいけばいいでしょう？

- ・高台 28人 ・どこかに行く 1人

Q6、液状化現象という言葉を知っていますか。また、知っていれば液状化が南小の校庭で起きた場合あなたはどうしますか？

知っている 9人

(回答)

- ・校庭に行かないようにする。
- ・液状化しているところをよけて家に帰る。学校に行って先生にどうすればいいか聞く。
- ・教室にいる。
- ・大変だがわからない。

知らない 20人

Q7、災害伝言板を知っていますか？

知っている 8人

知らない 21人

半年という月日が経っているため記憶が薄れてきている可能性があるが、東日本大震災に対し「怖くなかった」という回答が予想以上に多い。今一度地震の怖さを認識し、地震を恐れる気持ちを決して忘れないようにさせたい。また、テレビなどのメディアから入ってくる情報で、津波から避難するために建物屋上に避難者がいた映像が印象的だったのか、地震が起きた場合に建物の高いところへ避難すると回答している児童がいるということや、地震が来てもそのまま遊んでいるといった甘さなどの誤った考えが目立つ。

3月11日を振り返ると、本学級の児童は、体育の学習を校庭で行っていたため、建物の中での大地震は味わっていない。しかし、「プールが揺れて水が溢れていた」、「地面が割れた」などのことは目で受け止めているため、地震の破壊力のすごさは感じている。だが、建物の中での経験がないため、もし大地震が起きた場合に逃げることに必死になって、パニックになって飛び出してしまう可能性もある。そのため、東日本大震災について本学級の児童に考えさせ、地震の規模や震度の知識が無いにしても、身を守る知識と考えは養わせたい。

## 2-3 本時について

2時間構成とし、1時間目に安全に関する基本的な知識の確認と災害伝言板や伝言ダイヤルの使い方習得する。

本時は2時間目であり、1時間目に身に付けた知識を使って、より実践的に自分の身を守るための思考判断能力を養うことをねらいとする。

はじめに、東日本大震災を新聞や映像を見ることで振り返り、地震の怖さを再確認させることで、地震はある時、突然に非常に広範囲に発生するという印象付け、後世へも伝えられるようにさせたい。次に、家族がばらばらになり災害に巻き込まれる可能性があるということを確認させ、自分

なりの命の守り方を考えさせる時間を与えることで、地震に対しての気持ちのあり方や思考判断能力を高くさせたい。そこで、日常的にあり得る場合として、下校中及び家庭に一人である場合に大地震が起きたことを想定して考えさせる。また、互いに考えを共有するために、地域ごとの班分けをして、話し合わせるようにする。さらに、具体的な例をもとに様々な場所で大地震が起きた場合の避難方法のクイズを出し、友達のを聞くことで新たな気づきを芽生えさせるとともに、友達へ話すことで自分の考えに自信をつけさせたい。最後に、家族と話し合いをさせるための「家族での話し合いシート」を課題として出し、家庭内で約束事を決めるように促し、その大切さを伝えていきたい。このような学習を通して、児童に大地震に対しての準備を十分に整わせようと考えている。

### 3 単元構成と指導のねらい (2 / 2)

学習問題	学習内容と活動	時配
災害伝言板と災害伝言ダイヤルを使ってみよう。	地震対策の基本的な知識を再確認し、家族に連絡をとる手段を知り、実際に練習する。	1
大地震が起きたとき、先生や家族がいない場合の自分の身の守り方を考えよう	大地震が来た時の自分の身の守り方を考え、ワークシートにまとめ発表し、先生や家族がいない場合の自分の身の守り方の思考判断能力を高める。	1 (本時)

### 4 本時の指導

ねらい：大規模な地震が発生したときに先生や家族がそばにいない場合、どのように自分の身を守るかについての思考判断能力を高める。

<展開>

時配	学習活動	○教師の支援・指導上の留意点☆評価	資料
導入 10分	・東日本大震災の被害映像を見たり、教師の話を聞いたりして、地震の怖さに対し再認識する。	○予め、地域別の班にしておく。 ○東日本大震災を思い出させるために、実際の被災地の画像を映し出して3月11日の話をする。 ○千葉市での被害の様子を見せ、より臨場感を高める。	電子黒板
展開 25分	・本時の学習内容について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大規模な地震が発生したときに先生や家族がそばにいなかったら、どのように自分の身を守るのかを考えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">問 「次の2つの場所で大地震が起きた場合にあなたはどうか？」 1：学校帰り（下校中） 2：自分の家の中</div>	○東海地震や関東直下型地震などの話を入れ、大地震が身近におきるとい意識を高める。	発問内容が書いてある模造紙 拡大した写真4枚 千城台南周辺の地図 ワークシート
	・教師の問いに対し、自分の考えを記入する。		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような被害が出るか発表する。また、教師から起こりうる被害についての話を聞く。</li> <li>・どうすれば命を守れるかをワークシートに記入していく。</li> <li>・班でお互いに発表する。 (学校帰り) 「帰り道は電柱がたくさんあるから避けて断線しているところを確認しながら帰ろう。」 (自分の家の中) 「地震で家が傾いて外出できなくなると困るから、すぐにドアを開ける。」 「火事になったら危ないので火を消す。」</li> <li>・全体で発表する。 「塀が壊れる可能性もあるからなるべく離れる必要がある。」 「4丁目あたりだったら南中に逃げる。」 「外を見て火事になっていないか確認して、火が出てない方へ逃げる。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考えが出しやすいように、地域や家の様子の画像を映す。</li> <li>○考えが出ない場合は、「塀の倒れ」、「電線の断線」、「地面の地割れ」などを告げる。</li> <li>○一人で考えるために、一度席を班から直させる。</li> <li>○「答えは一つではない。考えたことを全て書こう。」と助言をし、意見を多く出させる。</li> <li>○地域別の班にさせ机間指導を行い、あいまいな回答に対しては、新たな発問で切り返したり、回答に困っていれば助言を入れたりし、考えの幅を広げる。</li> <li>○回答が出しにくい児童に対しては、「○○だから△△すればいい」というフレーズに当てはめて回答するように提示する。</li> <li>☆避難の仕方について考えることができる。</li> <li>○班で一人以上は発表するようにし、多くの考えや新たな発見などに気付かせる。</li> <li>○皆が共感できるように帰り道及び自分の家の中の2つの場所に対して多くの回答を出させる。</li> <li>○あまりにも回答にずれがある場合は、修正するように助言する。</li> </ul>	電子黒板
<p>終末 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災で助かった児童や生徒の事例を見る。</li> <li>・教師の話を聞く。</li> <li>・大地震があらゆる場所で起きた場合の避難方法のクイズに挑戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○助かった例を、電子黒板を使って提示し、とっさの判断の大切さに気付かせる。</li> <li>○その時と場所での判断が必要であるということと、身近な避難所の場所の確認をする必要性を伝える。</li> <li>○より臨場感を出すために写真を映し出す。</li> </ul>	<p>電子黒板 (岩手日報の記事)</p> <p>電子黒板</p>

	<p>する。</p> <p>・家族での話し合いシートをもらう。</p>	<p>○本時の目的を確認し、被災を受けても自分の力で命を守ることができるということを伝える。</p> <p>○家族での約束事を決めるために、家族で話し合うように促し、その必要性を伝える。</p>	<p>家族での話し合いシート</p>
--	-------------------------------------	---	--------------------

## 5 板書計画

大地震が来たとき、自分の身の守り方を考えよう。

### 問い

① 「次の2つの場所で大地震が起きた場合にあなたはどうか？」

- 1：学校帰り
- 2：自宅

ここらへんに千城台南の地図

1丁目の  
写真

2丁目の  
写真

3丁目の  
写真

4丁目の  
写真

### 学校帰り

- ・電柱が倒れる可能性もあるからなるべく離れる必要がある。
- ・南中のほうが近いから南中へ逃げる。

### 自分の家の中

- ・災害伝言板を使う。
- ・周りの家が火事になっていないか見る。
- ・ドアを開ける。

自分の命は自分で守ろう。

必ずおうちの人との約束事を決めよう。